

学校評価アンケート集計から (R5年度版) △アップ・▼ダウン

※ 達成率は、「思う」「少し思う」との合計

学校教育目標 (ミッション)

- 「心豊かなたくましい生徒の育成」
 ～調和のとれた「自立」をめざし～
- (1) 丈夫な体を持つ生徒 (体)
 - (2) 優しい心を持つ生徒 (徳)
 - (3) 豊かな知識を身につけた生徒 (知) の育成を通して

目指す生徒像 (ビジョン)

- 多様性を認める生徒 (Diversity Smile)
- 可能性に挑戦する生徒 (Challenge)
- 主体的に学び続ける生徒 (Update)

生徒の生活努力目標

- 中原中学校4つのキーワード : Smile、Diversity、Update、Challenge
- 「心を伝える あいさつ」、「心も磨く 掃除」、「心をつなぐ ありがとう」

重点目標 (学校経営スローガン)

『グローバル社会で、たくましく生き抜くスキルを身につけた生徒の育成』

令和5年度研究テーマ (3年間3年目)

『課題解決学習を通して、考えを深めることのできる授業の工夫』
 ～ICT機器を活用した個の特性を踏まえた指導のあり方～

【学習指導面】

結果	・授業に集中して取り組んでいる	(生徒)	94%→	90%	▼
	・授業の内容を理解している	(生徒)	86%→	86%	—
		(保護者)	70%→	74%	△
	・学校の宿題にしっかり取り組んでいる	(生徒)		89%	
		(保護者)		76%	
	・定期試験前に計画的に学習に取り組んでいる	(生徒)		80%	
		(保護者)		64%	
	・基礎学力が身につけている	(保護者)		66%	
	・個別の学習支援を行った	(教師)		76%	
	・全国や柏市学力テストの結果を分析し、授業改善に役立っている	(教師)	78%→	76%	▼
	・宿題以外の家庭学習に取り組んでいる	(生徒)		75%	
		(保護者)		56%	
	・読書をする習慣がある	(生徒)		48%	
		(保護者)		34%	
	・図書室の活用に努めた	(教師)		28%	
	・将来の職業・目標等に希望をもっている	(生徒)		69%	
		(保護者)		51%	

【生徒指導面・特別活動・保健安全指導】

結果	・学校行事に積極的に参加している	(生徒 91%→ 91%)	—
		(保護者 88%)	
	・挨拶や返事がしっかりできる	(生徒 96%→ 93%)	▼
		(保護者 70%→ 69%)	▼
	・ルールやきまりを守って生活している	(生徒 94%→ 95%)	△
	・きまりや時間を守って生活している	(保護者 85%→ 75%)	▼
	・挨拶、服装、時間やルールなど生徒の規範意識向上に努めている	(教師 88%→ 96%)	△
	・学校をよりよくするために委員会活動や係活動を積極的に取り組んでいる	(生徒 80%)	
	・中原中は様々な場面で生徒の活躍の場を設定している	(保護者 77%)	
		(教師 88%)	
	・人間関係は良好である	(生徒 77%→ 85%)	△
		(保護者 87%)	—
	・中原中に通わせてよかった	(保護者 90%→ 89%)	▼
	・信頼できる先生がいる	(生徒 80%→ 79%)	▼
	・悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生がいる	(生徒 79%)	
	・中原中は生徒に寄り添い生徒理解に努めている	(保護者 81%)	
	・生徒の気持ちに寄り添い生徒理解に努めた	(教師 96%)	
	・先生はどの生徒にも公平に指導している	(生徒 79%)	
	・学習や係活動、部活動等で自分の取り組みを認めてくれる先生がいる	(生徒 84%)	
	・先生は生徒の行動に対してきちんと指導してくれる	(生徒 90%)	

【教師の研修及び保護者や地域とのかかわり】

結果	・HP等による積極的な情報発信をしている	(生徒 76%)	
		(保護者 87%)	
		(教師 96%)	
	・授業参観・学校行事の公開は適切に行われている	(保護者 87%)	
		(教師 100%)	
	・PTA活動や地域行事に積極的に参加した	(教師 52%→ 68%)	△
	・学校の電話対応は丁寧である	(保護者 82%)	
	・中原中は、お子様について家庭との連絡に努めている	(保護者 86%)	
	・保護者の気持ちに寄り添い相談等に適切に対応し信頼関係を築く努力をしている	(教師 100%)	
	・教育公務員として、服務・倫理を常に心がけている。	(教師 100%)	

【考察（成果と課題）】

・昨年度「わからない」の回答が多かった項目の見直し及び教師の自己評価にかかわる項目について一部変更した。

・下降傾向が続く「信頼できる先生がいる」では、達成度80%を超えていないものの、「親身になって聞いてくれる」「生徒に寄り添い生徒理解に努めている」「自分の取り組みを認めてくれる」という教師に対する肯定的な評価がいずれも高い。これについては、昨年度の課題であった「生徒指導で困っている教師」が増えていることを受け、今年度「若年層校内研修」を実施し、経験年数の少ない教師の思いや悩みを教師同士互いに共有し、生徒の心を育む教師としての姿勢、人間関係の築き方、生徒への接し方などについて考えるような会議や研修を重ねた。併せて、教師の自己評価においても、生徒や保護者に対して気持ちに寄り添い信頼関係を築く努力と教育公務員として倫理観と規範意識を高くもつことを心がけた成果がみられる。

・一方、20%近くの生徒や保護者は「悩みを相談できない」あるいは「理解してもらえな

い」と感じている。常に私たちはそのような生徒や保護者へ目を向けより一層の安心と信頼につなげられるよう努力が必要である。

- ・「いじめなどの相談窓口」「いじめや問題行動への対応」では40%あまりの保護者が「わからない」と回答している。「学校いじめ防止基本方針」「相談窓口」など、HPへの公開をはじめ、積極的な情報発信等を引き続き工夫していきたい。

- ・「きまりや時間を守って生活している生徒」は生徒自身の評価ではかなり高い。しかし、保護者の視点では「交通安全」「身だしなみ」では、課題が多くあることとしてご意見をいただいている。生徒の登校状況からも、時間に余裕をもった行動を考えることには課題がある。貸与されている生徒一人一台端末の使用時間や方法についても生徒が考案した「中原中スタンダード」5年目となる今こそ再び生徒自身で見直す時期ではないだろうか。

- ・生徒と保護者間で最も大きな違いが感じられたものが学習面についてである。「学校の宿題や定期テスト前に計画的に学習に取り組んでいる生徒」は80%以上である。しかし、保護者それにはもっと努力が必要と感じている。宿題以外の家庭学習の取り組みについても同様である。10%以上の生徒は「授業の内容を理解していない」と回答していることから、学校では個別の学習支援を充実させ、家庭学習につなげられるように指導の工夫が求められる。全国や柏市学力テストの結果を分析し、授業改善に役立てている引き続き学習遅進生徒へのより一層の細やかな指導・支援をしていく。

- ・今回のアンケートにより、改めて「読書離れ」が顕著になっていることがわかった。授業者としての学校図書館の活用はもとより、生徒会で令和4年度に設置された学級文庫も活用できる。読書活動以外にも生徒の自治的な活動として生徒一人一人の努力により学校がつくられていくこと伝え、将来へ向け希望をもたせたい。

- ・学校行事や体験的な学習の開催によって、生徒も保護者も「学校行事への積極的な参加」についておおむね充実した学びを感じている。体験的な学習は生徒の主体性を育み、社会との関わりについて学ぶ機会となる。今年度は全校体制でNPOとの連携など外部機関を活用し、中原中のビジョン（多様性を認める生徒（Diversity Smile）可能性に挑戦する生徒（Challenge）主体的に学び続ける生徒（Update））の育成の機会を積極的に設けた。保健行事についても地域の力を借りながら開催することができた。今後もこれからの社会に求められる力・豊かな心を育みたい。